
タクシーに乗るのも悪くない。

一柳 紘哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タクシーに乗るのも悪くない。

【Nコード】

N0825A

【作者名】

一柳 紘哉

【あらすじ】

いつも避けていたタクシー。雨に濡れたくない。そんな簡単な気持ちで僕は久しぶりにタクシーに乗ることにした。いいんじゃないかな。

今日、携帯に玄米のように懐かしい友達から電話があった。久しぶりだということもあって、会話も弾み会って話そうということになった。

いつもと違い、かなりの時間を持て余していた僕は、とても小さな旅行がしたくて、彼の家まで行くことにした。

しかし、彼の家近くの駅でおりたときに最悪のタイミングで、雨が降ってきてしまい、濡れることを避けた僕は今、タクシー乗り場で順番を待っている。

確かにタクシーは高い、そのため僕はタクシーに乗ることを、かなり避けて生きてきた。

でも、今日はなぜか、駅で雨の匂いを嗅いだときに、どうしようもなくタクシーに乗りたくなった。なぜだろう。

そんな事を考えていると、ちょうど僕の順番が回ってきた。僕は大きな口を開けたタクシーにのりこみ。

「・・・町三丁目まで」

と、用件だけを確実にいった。返事がない。

まあいい世の中にはいろんな種類の人間がいる。たとえ仕事だとしても会話しない人もいる。

僕の乗ったタクシーの運転手もそういう人なのだ。そうしてタクシーは出発した。

だんだん駅が遠くなる。当たり前だけど僕の知らない町を進んでいく。

「お客様はとってもラッキーです。お客様はクルートに選ばれました。」

無口。とかってに決めた運転手がしゃべった。

「それはいつたいどれくらいラッキーな事なのかな？」

と、僕は言った。

「とてもラッキーですよ。

一年のうちに三人しか選ばれない、そんな確率なのですよ。おめでとうございます」

「どんなメリットがあるの？」

「そうですね・・・

たくさんあって、一概には申しにくいのですが・・・

ああ、確か豚汁は食べ放題です。」

とてもいいね。

そう僕は言った。なぜなら僕は豚汁は大好きだから。

どこにつれて行かれるか、本当に分からなくなってしまった。でもタクシーも悪くない。

ところでクルートって何だろう？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0825a/>

タクシーに乗るのも悪くない。

2010年12月13日23時45分発行